

令和7年6月6日

「国際消費者シンポジウム in 徳島」

SDGsの達成に向けたマルハニチロの取組



マルハニチロ株式会社
取締役 常務執行役員
廣嶋 精一

1. マルハニチロ株式会社 概要
2. 令和5年度「消費者志向経営優良事列表彰 内閣府特命大臣表彰」取組内容の紹介
3. マルハニチロの新長期ビジョンとその実現に向けた取組の現状と課題
抜粋) ・フードロス削減の取組事例
・持続可能な漁業・養殖認証(MSC・ASC)の水産物の取り扱い推進事例

会社概要

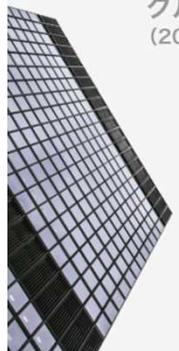


- ・社名： マル八ニチロ株式会社
- ・設立： 1943年（創業は1880年）
- ・代表者： 代表取締役社長 池見 賢
- ・資本金： 200億円
- ・連結売上高： 1兆306億円（2024年3月期）
- ・連結経常利益： 311億円（2024年3月期）
- ・本社所在地： 東京都江東区豊洲三丁目2番20号 豊洲フロント
- ・連結従業員数： 12,531人（常勤）（2024年3月31日現在）

数字で見るマルハニチロ



約**70**の国と地域に
取引先 (2020年1月現在)



152社
グループ会社数
(2024年3月現在)



約**40**億缶
缶詰「あけぼのさけ」の累計出荷数
(2024年4月時点/自社調べ)
誕生年1910年



民間企業で初めて
クロマグロの
完全養殖に成功した年
2010年



全米シェア
約**30**%
(2023年1月~12月累計)



DHA (食品用)
生産量国内シェア
約**50**%
(2024年4月時点/
累計・自社調べ)



1位
冷凍調理
(種類：ラーメン・うどん・そば)
(スープ付き・具付き)
年間販売金額 (累計)
インテージSRI (2008年10月~2017年9月)
SRI+ (2017年10月~2023年9月)



全米シェア
27%
スケソウダラの漁獲量
年間約299,781トン
(2023年1月~12月累計)

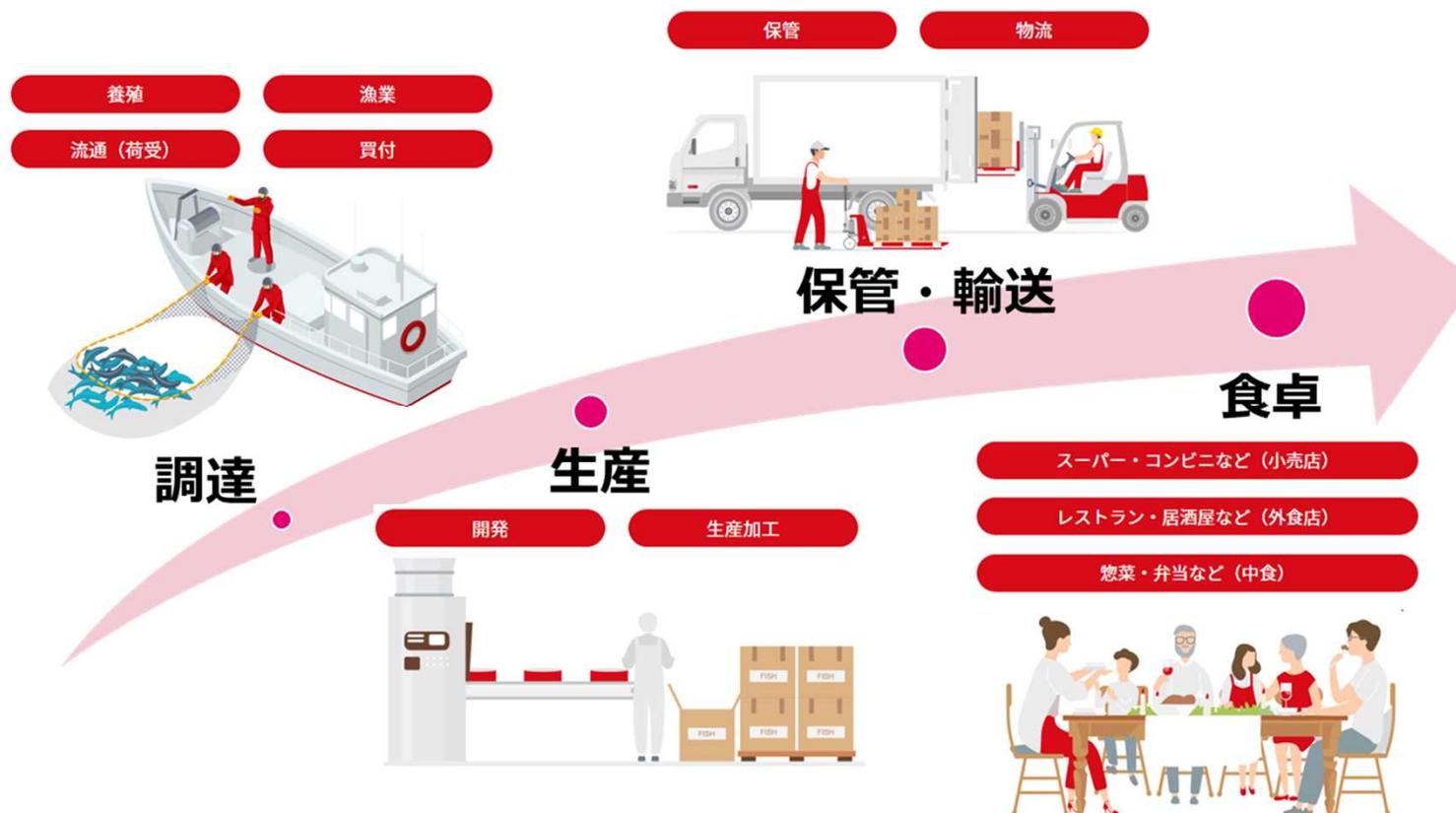


介護食品目数
176品目 (2024年4月現在)
高齢者用食品「キザミ・ミキサー・ソフト食」部門 国内シェア**1**位
(シード・プランニング「2022年度版高齢者/病者用食品市場総合分析調査」より)

世界の海から、みなさまの食卓に



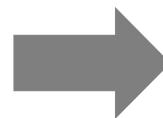
マルハニチロは、グローバルな水産物調達力を生かし、
一貫したバリューチェーンを通じて世界の人々の食を支えています。



マルハニチロはUmiosへ



2026年3月 マルハニチロは、umiosへ



新たなアイデンティティのもと、持続的成長をめざし、次なるステージに向けてグループ一体となって
様々なステークホルダーと価値を共創し、「食」を通じてグローバルに社会課題解決に挑みます

マルハニチロはUmiosへ

 MARUHA NICHIRO



umi

私たちのルーツである海を起点に価値を生み出していくという想い

one

ステークホルダーや社会全体、そして地球と一体となっていく意思

solutions

「食」を通じて地球規模の社会課題解決に挑むという決意

PURPOSE

私たちが存在する理由

For the ocean, for life

—海といのちの未来をつくる—

MISSION

私たちが果たす使命

私たちは誠実を旨とし、本物・安心・健康な「食」から広がる
豊かなくらしとあわせに貢献します。

1. マルハニチロ株式会社 概要
2. **令和5年度「消費者志向経営優良事列表彰 内閣府特命大臣表彰」取組内容の紹介**
3. マルハニチロの新長期ビジョンとその実現に向けた取組の現状と課題
抜粋) ・フードロス削減の取組事例
・持続可能な漁業・養殖認証(MSC・ASC)の水産物の取り扱い推進事例

本日の内容



クロマグロの
完全養殖



アトランティック
サーモン陸上養殖



介護食

完全養殖クロマグロ事業

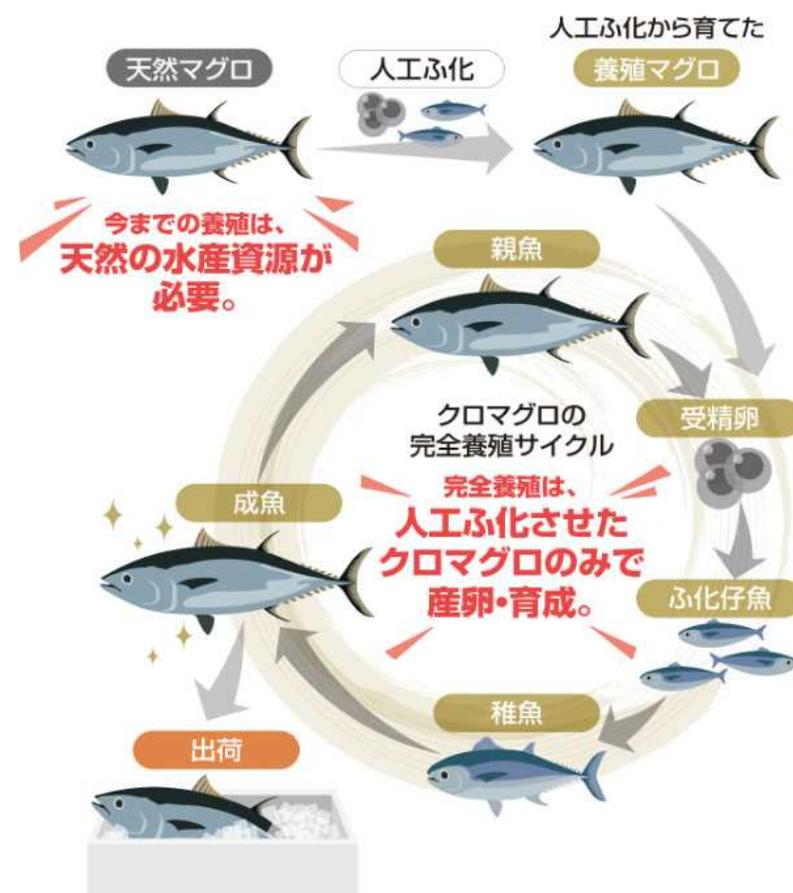
【世界の民間企業で初めてクロマグロの**完全養殖**に成功！】

完全養殖とは
人工ふ化させた魚から「採卵・ふ化・育成」させる
循環型の養殖です

天然資源の親マグロを使うことなく養殖が可能に

太平洋クロマグロはIUCN（国際自然保護連合）により
一時期は**絶滅危惧種**（VU危急種）とされていました
現在は危機レベルが一段下がり**近危急種**となっています

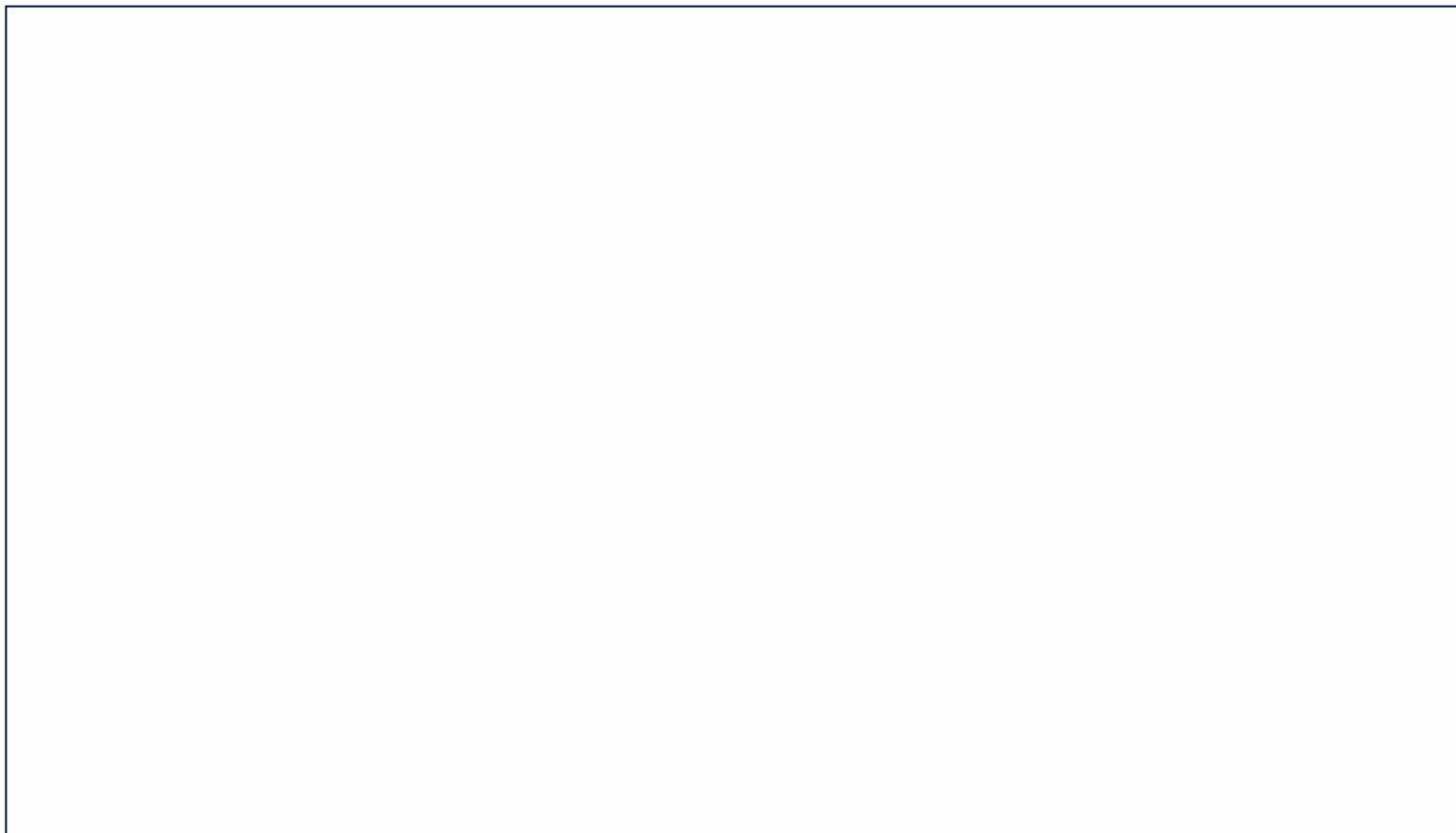
マルハニチロの完全養殖クロマグロ事業は
天然資源を守りながら、
皆様の食卓に美味しいマグロをお届けいたします



完全養殖クロマグロ事業



【奄美大島のマグロ養殖場（動画）】※再生ボタン▶をクリックすると再生します。



完全養殖クロマグロ事業



課題もあります

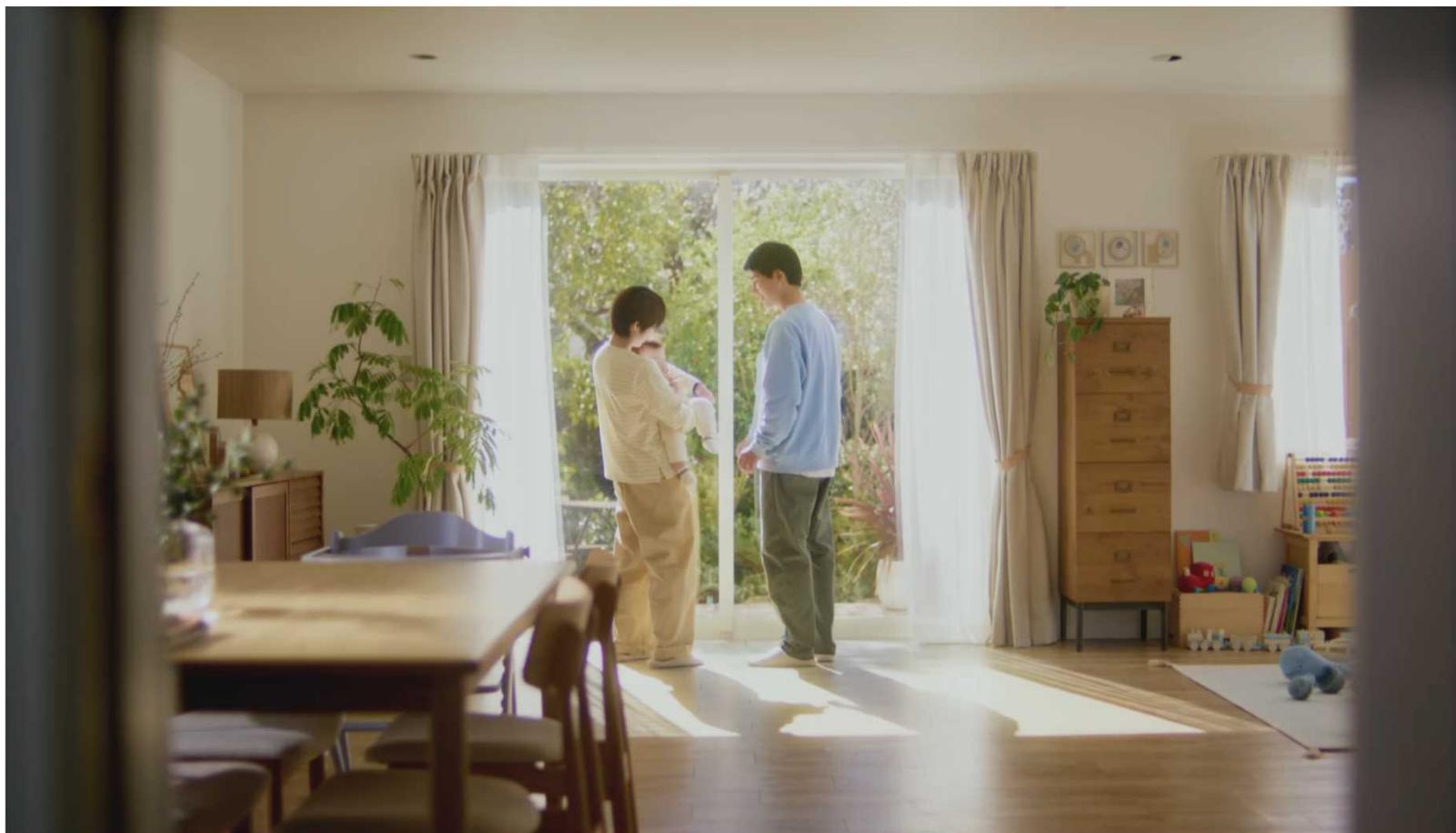
- 1) 育成期間が長い：製品出荷までに4年かかります
- 2) 初期減耗が激しい：孵化から5cmまでの間に98%が死んでしまいます
- 3) コストがかかる：親魚（100kg以上）を5～8年飼育しなければならない



マルハニチロは 未来・次世代のために持続可能な取組を推進していきます

サーモン陸上養殖事業

 MARUHA NICHIRO



サーモン陸上養殖事業



会社名	アトランド株式会社
設立日	2022年10月18日
住所	富山県下新川郡入善町下飯野
事業内容	循環型養殖システムを活用したサーモンの陸上養殖、販売事業
資本金	最大110億円
生産規模	年間2,500mt

三菱商事(株)

- ・ 鮭鱒海面養殖のノウハウ
- ・ グローバルネットワーク
- ・ 事業推進力・経営力
- ・ EX・DX関連の取組み



構想力・推進力



マルハニチロ(株)

- ・ 水産業界の豊富な知見
- ・ 養殖分野の専門人材
- ・ 研究開発力
- ・ 国内外に於ける事業実績

現場力

- ・ 三菱商事・マルハニチロの合併で、富山県入善町にサーモンの陸上養殖・販売会社「アトランド(株)」を設立。
- ・ 出資比率は、三菱商事51%・マルハニチロ49%であり、代表取締役社長は三菱商事より派遣。

目指す将来像

地域と連携したEX(グリーン養殖)・DX(スマート養殖)の一体推進により、日本の養殖産業に「新たな価値」を創出する。

(当社のビジョン・ミッションも別途策定済)



“未来創造”の実現 (新産業創出/地域創生)

EX “グリーン養殖”の実現

- 1 地産地消によるGHG排出削減
- 2 冷熱源となる海洋深層水の有効活用 (最小限のエネルギーで施設を運営)
- 3 再生可能エネルギーの活用可能性

- ・ 環境に配慮したサステナブルな食料資源
- ・ 地産地消実現による低炭素社会への移行

“スマート養殖”の実現 DX

- 1 データの相互連携による運営効率化
- 2 AI・IoT活用による生産事業の最適化 “匠の技(暗黙知)を企業の組織知に”
- 3 養殖事故察知システムの導入

- ・ デジタル技術による徹底的な最適化促進
- ・ 生産性向上による省エネ・廃棄ロスの削減



【利用者・栄養士・調理者・介助者の皆様が幸せになる介護食事業を展開】



【ユニバーサルデザインフードの規格に基づいた製品ラインナップ】

「嚥下食調整食学会分類2021」(対応表)

	学会分類 2021	UDF 👉	
嚥下訓練食品 0j	0j	—	やさしい主食 
嚥下訓練食品 0t	0t	—	
嚥下調整食 1j	1j	かまなくて よい	ひとさじのチカラ 
嚥下調整食 2-1	2-1	かまなくて よい	
嚥下調整食 2-2	2-2	かまなくて よい	やさしいおかずレット  やさしい素材 
嚥下調整食 3	3	舌で つぶせる	やさしいおかず  
嚥下調整食 4	4	舌で つぶせる	New 素材deソフト  やさしいおかず  (歯ぐきでつぶせる)
		歯ぐきで つぶせる	
		容易に かめる (一部)	

ユニバーサルデザインフードの規格に基づいて製造していますので、
 いただれが作っても同じ物性の食事が提供できます。
 商品ラインナップも多彩に取り揃えておりますので、
 患者利用者様の咀嚼・嚥下能力に応じたメニューの組み立てをしていただけます。



メディもも

1. マルハニチロ株式会社 概要
2. 令和5年度「消費者志向経営優良事例表彰 内閣府特命大臣表彰」取組内容の紹介
3. マルハニチロの新長期ビジョンとその実現に向けた取組の現状と課題
 - 抜粋) ・フードロス削減の取組事例
 - ・持続可能な漁業・養殖認証(MSC・ASC)の水産物の取り扱い推進事例

新長期ビジョン① 事業活動を通じて取り組む社会テーマ



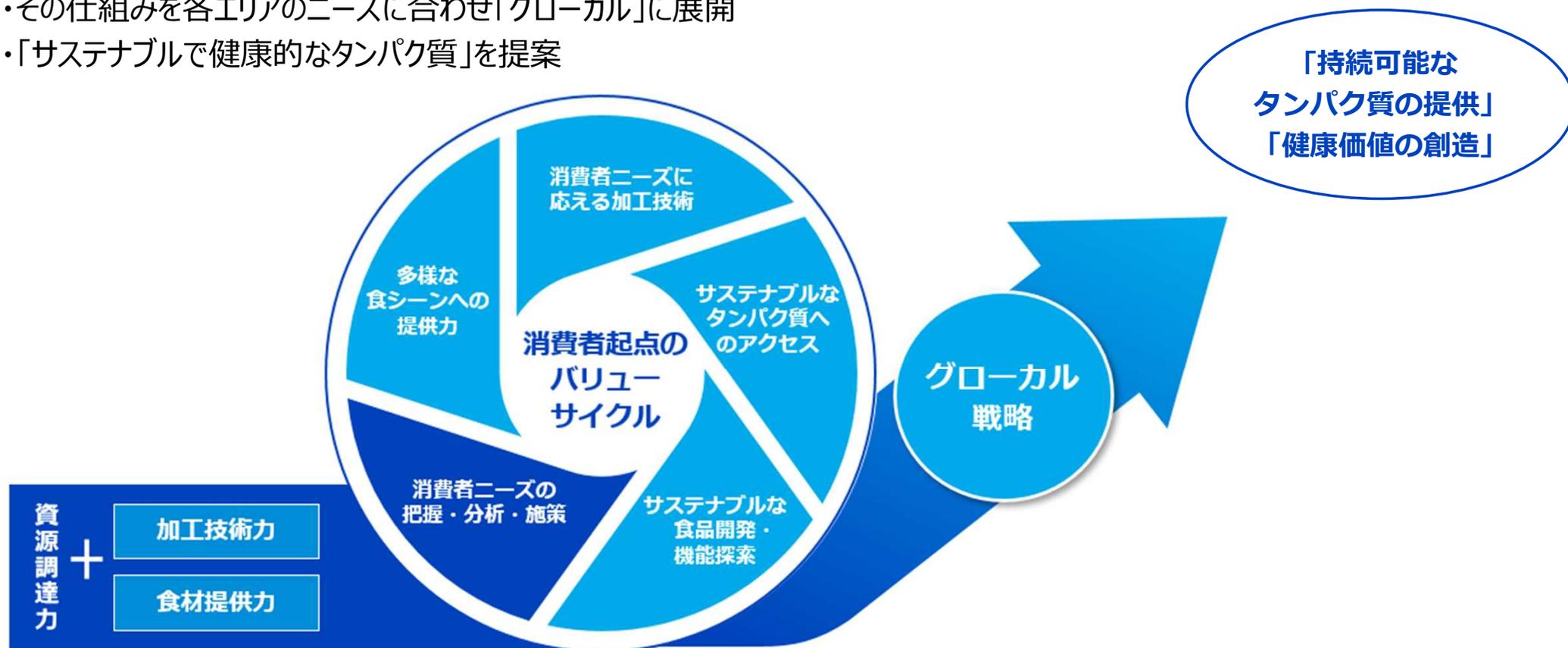
当社グループの事業活動を取り巻く社会課題は多様、複雑で、持続可能な事業性が必要不可欠



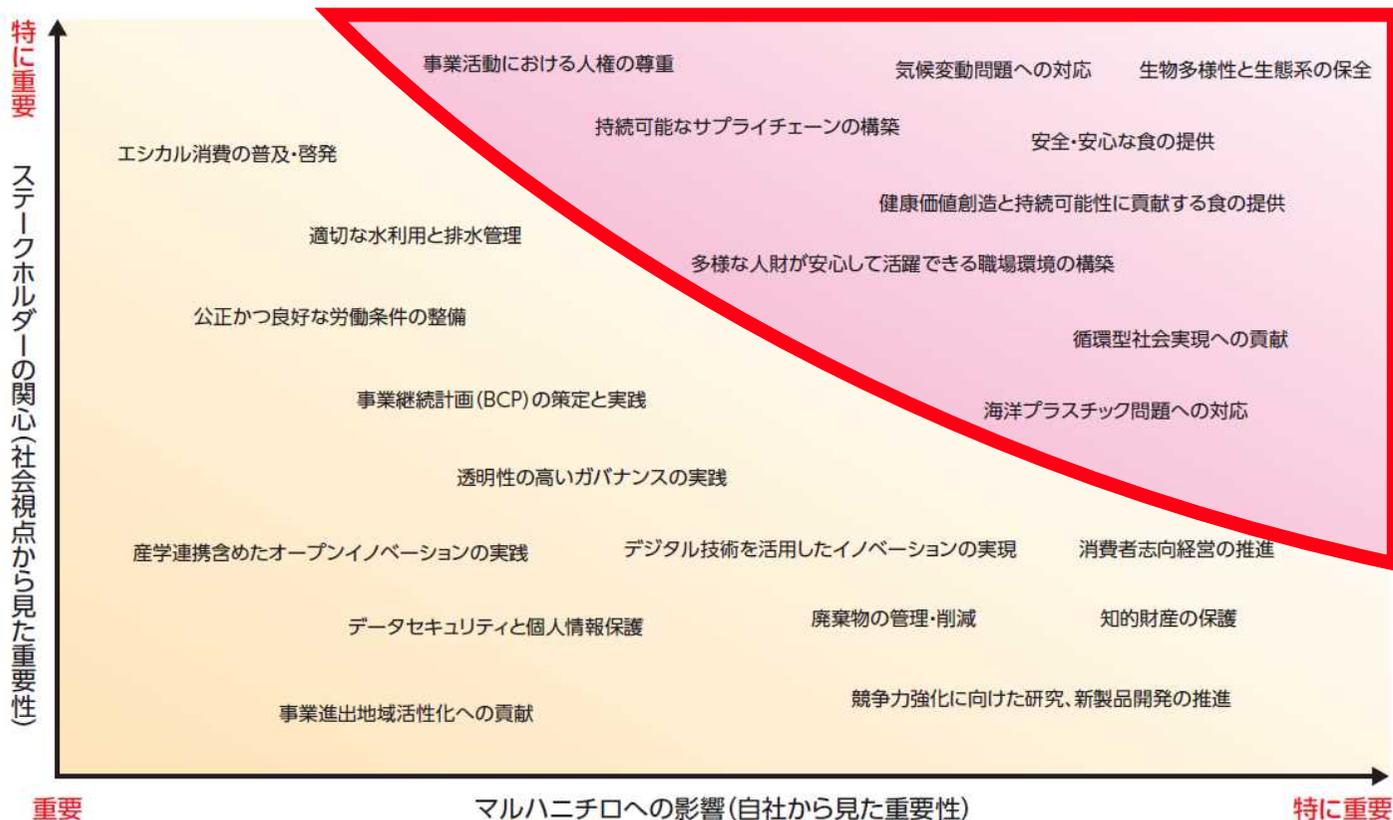
新長期ビジョン② 10年後に向けた新長期ビジョン

MARUHA NICHIRO

- 当社グループの強みを、消費者起点の連携で持続的な価値創造を可能にする「バリューサイクル」で強化
- その仕組みを各エリアのニーズに合わせて「グローバル」に展開
- 「サステナブルで健康的なタンパク質」を提案



新長期ビジョンの達成に向けたマテリアリティ



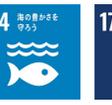
社外の意見や期待、
経営戦略との整合性を踏まえ、
マテリアリティを見直し、選定

- ✓ 経営資源を効率的に活用するため、社会軸・自社軸双方から重要性の高い右上象限をマテリアリティとして選定
- ✓ 外部環境や事業戦略の変化との連動を意識し、今後も定期的に見直しを実施
- ✓ 新中期経営計画時に見直し作業を実施したうえで前中計からの継続推進を決定

環境価値の創造に貢献するマテリアリティとSDGs



「環境価値の創造に関するマテリアリティ」 気候変動問題や生態系保全等に取り組むことで、持続的成長と環境価値の両立を目指す

	マテリアリティ	KGI (2030年の ありたい姿)	主なKPI	ターゲット		貢献する 主なSDGs
				目標値	目標年	
環境価値の創造	①気候変動問題への対応	2050年カーボンニュートラルを目指し、脱炭素や気候変動に対して業界における主導的地位を確立している	CO ₂ 排出量削減率 (2017年度比：国内グループ)	30%以上	2030	 
			CO ₂ 排出量削減目標設定 (海外グループ) Scope 3目標設定 (国内グループ)	—	2027	
	②循環型社会実現への貢献	効率的な資源利用によるサーキュラーエコノミー (循環型経済) がグループ内に浸透し、実践している	プラスチック使用量削減率 (バイオマス、リサイクル素材等への切替含む) (マルハニチロ (株))	30%以上	2030	   
			フードロス (製品廃棄) 削減率 (国内グループ)	80%以上	2030	
			水資源のリスクと機会、対応策の分析評価、対応策検討	—	2027	
	③海洋プラスチック問題への対応	自社を含むサプライチェーン上で海洋へのプラスチック排出ゼロを実践している	サプライヤー向け漁具管理ガイドラインの策定と運用啓発 (マルハニチロ (株))	—	2027	  
			社外ステークホルダーとのクリーンアップ活動の共同開催 (国内グループ)	33回以上	2030	
	④生物多様性と生態系の保全	取扱い水産資源について、資源枯渇リスクがないことを確認している	取扱い水産物の資源状態確認率 (マルハニチログループ全体)	100%	2030	 
			一部魚種での電子トレーサビリティ方法の確立	—	2027	
			養殖場の認証レベル管理体制の構築 (国内グループ)	—	2027	

フードロス削減の取組事例

冷凍食品の持続的な寄付スキームの構築

従来の課題：

マルハニチロのフードロスの約9割が冷凍食品。冷凍食品の品質保持には温度管理が必要となる。また受け入れ先の多くは冷凍設備が限られるため、少量配送となり、コストと手間がかかっていた。

フードバンクかながわ様と物流会社様との取組：

フードバンクかながわ様の保冷車で、マルハニチロの冷凍食品を保管している川崎地区の倉庫から定期的にまとまった数量でのお引き取りをいただき寄付をするスキームを構築。食品メーカー、物流会社、フードバンクの三者間の協力で実現。

マルハニチロのマテリアリティとKGI

マテリアリティ	KGI (2030年のありたい姿)
②循環型社会実現への貢献	効率的な資源利用によるサーキュラーエコノミー（循環型経済）がグループ内に浸透し、実践している

関連する主なSDGs



フードロス削減の取組事例

輸入冷凍品は
物流会社倉庫に保管



輸入時抜き取り調査の
残りの端数品が発生
(製品品質は良品と同じ)



各物流会社倉庫で
寄付可能品を隔離保管



「フードバンクかながわ」の
冷凍車に積込・引取



「フードバンクかながわ」から子ども食堂などの非営利団体や
行政機関を通じて、食の支援を必要とする方々へ届ける

「フードバンクかながわ」事務所敷地内の
冷凍コンテナに保管



「令和5年度食品ロス削減推進表彰」において、「消費者庁長官賞」を受賞しました。

社会価値の創造に貢献するマテリアリティとSDGs



「社会価値の創造に関するマテリアリティ」 グローバル企業としての責務に能動的に取り組む、世界中の人々の健康と持続的な社会の構築を目指す

	マテリアリティ	KGI (2030年の ありたい姿)	主なKPI	ターゲット		貢献する 主なSDGs
				目標値	目標年	
社会 価値 の 創造	⑤安全・安心な食の 提供	人々が安心できる食を世界中 の食卓に提供している	重大な品質事故* (国内グループ)	ゼロ	2027	
	⑥健康価値創造と持 続可能性に貢献する 食の提供	健康価値創造と持続可能性に 貢献する食品トップ企業として ブランドを確立している	各製品基準 (食塩摂取、たんぱく質摂取、脂質摂取、 GSSI認証製品) を満たす製品売上比率 (マルハニチロ (株))	基準を満た す売上比 率	2030	
	⑦多様な人財が安心 して活躍できる職場環 境の構築	多様性が尊重された、従業員 が安心して活躍できる職場環 境が構築できている	採用比率女性50%維持による女性従業員比率 (マルハ ニチロ (株))	35%以上	2030	
			取締役会女性比率 (マルハニチロ (株))	30%以上	2030	
			女性管理職比率 (マルハニチロ (株))	15%以上	2030	
			人財育成プログラムに基づく各人財プールの目標達成 (マ ルハニチロ (株))	-	2024	
			従業員エンゲージメントの特定項目のエンゲージスコア達成 (マルハニチロ (株))	-	2030	
⑧事業活動における 人権の尊重	自社会むサプライチェーン上で 人権侵害ゼロに向けた取組み を実践できている	多言語対応の苦情処理メカニズムの設置と運用、および発 覚した人権侵害リスクへの対応 (マルハニチログループ全 体)	100%	2030		
⑨持続可能なサプ ライチェーンの構築	サプライヤーとの協働により持 続可能な調達網構築を実現で きている	サプライヤーガイドラインへの同意率・重要項目改善率 (マ ルハニチログループ全体)	100%	2030		

マルハニチロにおけるSDGsの取組の現状と課題

持続可能な漁業・養殖認証（MSC・ASC）の水産物の取り扱いを推進



MSC-C-51737



持続可能な漁業で
獲られた
天然の水産物の証

水産資源と生態系を健全に保つために、適切に管理された漁業で捕獲された天然の水産物です。



ASC-C-01271



責任ある養殖により生産
された水産物の証

自然環境と水資源に配慮しながら、水産物の健康、公正な雇用、地域とのつながりを大切にする養殖場からの水産物です。

課題

日本では水産エコラベル認証の認知度は低く、なかなか経済価値につながらない。環境価値が経済価値につながる施策が必要。

Thank You



MARUHA NICHIRO

海といのちの未来をつくる